

第3回福島ダイアログセミナーのまとめ

ダイアログの進展

- ・第1回目のダイアログセミナーでは、被災地域のステークホルダーの関心事と状況についての興味ある議論が開始された
- ・第2回のダイアログセミナーでは、参加者が対話の有用性を理解し、放射線状況についての直面している問題を表明した
- ・第3回のダイアログセミナーでは、意義ある前向きな議論に発展し、ステークホルダーが問題点の議論に参加し、その状況を改善するための計画につながるような動機付けになった

関心事項

- ・若い世代の県離れを加速することで将来の人口構成に変化が生じること
子どもたちが将来差別を受けることに対する心配と責任の自覚
- ・生產品の販売 生産者は売りたいと考え、消費者はそれを食べることで連帯を示したいと考える。しかし、生產品のベクレルが減少しても、ブランド名を失う恐れと農家の意欲を低下させる恐れがある
- ・福島県内の異なる地域(避難地域、汚染地域)および県外で異なる挑戦が行われている
- ・情報と測定データが得られるようになったが、まだ必ずしも、Bq/kgとご飯一杯の関係のように関連づけられていない。内部被ばく対外部被ばくに関心の集中が高まること
- ・風評と誤解

進行中の行動

住民：個人線量計、食品の測定、情報の普及(消費者団体の役割)、全体計画に関わることの大切さ

生産者：生産物の質を回復するための対策を取り入れて運営(モニタリング、除染、検査)

流通業者：生産者と共同し、消費者の要求に沿うように食品の質を改善

消費者：県外の消費者は積極的な取り組み

優先すべきこと

- ・ 日常生活を改善するために自己管理を取り戻す
- ・ その際、住民自身によって管理できる方法を用いる
- ・ 記憶を保つことはコントロールを維持するための条件である
- ・ 個々人に注目すること
- ・ 地域の生産物の信頼を再構築する

勧告

- ・ 個人モニタリング、生産地と生産物の汚染状態のモニタリングを継続する
- ・ 生産物の信頼を回復するために放射性物質の汚染対策をさらに発展させる
- ・ すべての関心ある人々との継続的な対話ができるフォーラムを開設する
- ・ 自分自身で判断することを助ける情報や道具を提供する
- ・ 汚染と線量の関係の人々がより理解できるよう援助する
- ・ 子どもの問題の対処に、両親、祖父母および教師が関与していくことを促す
- ・ 県外の人々と向き合う積極性を保つ

以上